

ロシア工業団地バーチャル展示会（VERIP） ロシア工業団地オンライン・プレゼンテーション プログラム

- ◆日時:2022年3月11日（金） 日本時間：16:00-18:10（モスクワ時間：10:00-12:10）
- ◆会議形式: ZOOM ◆言語：日露通訳
- ◆参加申込期限：2022年3月9日（木）日本時間12:00

2022年2月18日時点

日本時間 (モスクワ時間)	プログラム
16:00-16:05 (10:00-10:05)	◆開会・議事説明 中居 孝文（一社）ロシアNIS貿易会ロシアNIS経済研究所副所長
16:05-16:10 (10:05-10:10)	◆主催者挨拶 ジュラフスキー デニス ロシア工業団地協会 事務局長
16:10-16:19 (10:10-10:19)	◆報告「ロシアにおける投資誘致政策と民間企業の投資活動の展開」 コヴァレンコ タチヤナ ロシア工業団地協会 産業建設委員会 委員長
16:19-16:23 (10:19-10:23)	◆質疑応答
16:23-16:32 (10:23-10:32)	◆プレゼンテーション1「ウリヤノフスク州の工業団地と経済特区」 ヴァシン セルゲイ ウリヤノフスク州開発公社 社長
16:32-16:36 (10:32-10:36)	◆質疑応答
16:36-16:45 (10:36-10:45)	◆プレゼンテーション2「スヴェルドロフスク州の工業団地と経済特区」 トレチャコフ ヴァジム 中部ウラル開発公社社長顧問、スヴェルドロフスク州知事顧問
16:45-16:49 (10:45-16:49)	◆質疑応答
16:49-16:58 (10:49-10:58)	◆プレゼンテーション3「サマラ州の工業団地と経済特区」 ニキーチン セルゲイ サマラ州投資誘致エージェンシー事務局長
16:58-17:02 (10:58-11:02)	◆質疑応答
17:02-17:11 (11:02-17:11)	◆プレゼンテーション4「リパツク州の工業団地と経済特区」 バザエフ アレクサンドル リパツク州投資開発エージェンシー会長、リパツク経済特区管理会社副社長
17:11-17:15 (11:11-11:15)	◆質疑応答
17:15-17:24 (11:15-11:24)	◆プレゼンテーション5「ストゥピノ・クヴァドラト経済特区」 チェリギナ ナターリア ストゥピノ・クヴァドラト経済特区マーケティング部長
17:24-17:28 (11:24-11:28)	◆質疑応答
17:28-17:37 (11:28-11:37)	◆プレゼンテーション6「ドブログラード経済特区」 アンチポフ デニス ドブログラード1 経済特区管理会社社長
17:37-17:41 (11:37-11:41)	◆質疑応答
17:41-17:50 (11:41-11:50)	◆プレゼンテーション7「テクノポリス・モスクワ経済特区」 ジョクテフ ゲンナジー テクノポリス・モスクワ経済特区社長
17:50-17:55 (11:50-11:55)	◆質疑応答
17:55-18:00 (11:55-12:00)	◆閉会

登壇機関・団体の概要

2022年2月15日現在

	機関・団体名	組織概要	URL
1	ロシア工業団地協会 産業建設委員会 	ロシア工業団地協会の下部組織で、ロシアで現地生産化を行う際のあらゆる作業段階（設計、各種許認可、インフラ・ユーティリティの整備、工場の建設管理等）をサポートしている。	https://indparks.com/about/command/comitet/
2	ウリヤノフスク州開発公社 	ロシア沿ヴォルガ地方のウリヤノフスク州の投資誘致の支援促進機関。ウリヤノフスク州は日本企業の誘致に力を入れており、現在、ブリヂストン、DMG森精機、タカタといった日本企業の工場が稼働、また地元の自動車メーカーと協力する形でいすゞがトラックの組立を行っている。	https://ulinvest.ru/?sl=en#page1
3	中部ウラル開発公社 	ウラル地方の産業の中心地であるスヴェルドロフスク州の投資誘致の支援促進機関。スヴェルドロフスク州は鉄鋼、機械、軍需といった重工業が盛んな地域で、同州ではニプロ、三島光産が生産活動をしている。チタンバレー経済特区にはボーイング社（米）の工場が入居。	https://investural.com/en
4	サマラ州投資誘致エージェンシー 	サマラ州はロシアの自動車産業の一大拠点。同州トリアッチ市にはロシア最大の自動車メーカーアフトヴァズの本社工場があり、同社と提携するルノー・日産が生産拠点を有する。トリアッチ経済特区には日系のATTR、HI-LEXなど多くのサプライヤーが入居している。	https://investinsamara.ru/en/
5	リペツク経済特区 	首都モスクワから350kmにあるリペツク州。リペツク経済特区は工業生産型特区で、入居企業は約60社。日系では横浜ゴムが同特区でタイヤを生産している他、Honeywell（米）、OBO Bettermann（独）、KEMIN（米）、ABB（スイス）等が入居。	https://sezlipetsk.com/en/
6	ストゥピノ・クヴァドラト経済特区 	首都モスクワの南西に位置する経済特区。2015年に開設したロシア初の民営の経済特区。入居企業数は約30社、うち17の工場がオープンしている。特区の周辺に住宅地を並行して開発しており、職住一体型の特区を目指している。	https://gdpquadrat.com/en/
7	ドブログラード1経済特区 	ドブログラード1経済特区は2020年11月にオープンしたロシアで最も新しい民営の経済特区。首都モスクワから240kmと近く、州都ウラジミル市から45kmのドブログラード市に位置する。住宅、教育・リクリエーション施設等を備えた職住一体型の特区を目指している。	https://sezdobrograd.com/en/
8	テクノポリス・モスクワ経済特区 	テクノポリス・モスクワ経済特区は、モスクワ市唯一の経済特区。現在、5つのサイト（アラブシェヴォ、ペチャートニキ、アングストレム、ミクロン、MIET）が開設済みで、6つ目のサイト（ルドネヴォ）が建設中。現時点で88のハイテク企業が入居している。	http://technomoscow.com/